第11号様式（第４条関係）

伐採後の造林に係る森林の状況報告書

年　　月　　日

鹿屋市長　　　　　　　様

【届出者（森林所有者等）】

伐採後の造林に係る権原を有する者

住　所

氏　名

連絡先

　　　　　年　　月　　日に提出した伐採及び伐採後の造林の届出書に係る森林につき次のとおり伐採後の造林を実施したので、森林法第10条の８第２項の規定により報告します。

１　森林の所在場所

|  |
| --- |
| 　鹿屋市　　　　　　　　町　　　　　　　　　　　　　　　　番 |

２　伐採後の造林の実施状況

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 造林の方　法 | 造林の期間 | 造　林樹　種 | 樹種別の造林面積 | 樹種別の植栽本数 | 作　業委託先 | 鳥獣害対　策 |
| 人工造林 | □植栽□人工播種 | 年　月　日 ～ 年　月　日　　 |  | ha | 本 |  |  |
| 天然更新 | □ぼう芽更新□天然下種更新 | 年　月　日 ～ 年　月　日　　 |  | ha | 本 |  |  |

３　備考

|  |
| --- |
|  |

　注１　報告に係る森林の所在する市町村ごとに提出すること。

２　氏名を自署する場合においては、押印を省略することができる。

３　森林の所在場所ごとに記載すること。

４　面積は、少数点第２位まで記載し、第３位以下を四捨五入すること。

５　樹種は、すぎ、ひのき、まつ（あかまつ及びくろまつをいう。）、からまつ、えぞまつ、とどまつその他の針葉樹及びぶな、くぬぎその他の広葉樹の別に区分して記載すること。

６　造林の方法欄には、人工造林による場合には植栽又は人工播種の別を、天然更新による場合にはぼう芽更新又は天然下種更新の別を記載すること。

７　人工造林による造林を行った場合において、複数の樹種を造林したときは、造林樹種、樹種別の造林面積及び樹種別の造林本数欄には、造林した樹種ごとに複数の行に分けて記載すること。

８　天然更新による造林を行った場合においては、造林樹種欄には代表的な樹種を、樹種別の造林面積欄には天然更新に係る区域全体の面積を記載すること。また、更新調査の結果又は造林地の写真その他の更新状況を明らかにする資料を添付する場合は、樹種別の造林本数欄に「別添のとおり」と記載することができる。

９　鳥獣害対策欄には、防護柵の設置、幼齢木保護具の設置などの方法を記載すること。

(裏面)

更新状況チェックリスト

（確認日：　　　　年　　月　　日）

　□　更新樹種の稚樹の樹高が50㎝を上回っており、周囲の競合植物の草丈を十分上回っている。

　□　更新樹種が５ｍ×５ｍ又は半径2.83ｍの範囲内に５本以上生育している。

　□　伐採跡地が全体的に更新されている。

|  |
| --- |
| 【造林地の写真】（撮影日：　　　　年　　月　　日）１　造林地前景の遠景２　更新樹種の生育状況（代表的な樹種の樹高、成立本数等が分かる近景） |